

### 第三回春日山原始林授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 北村 恭康

日 時 令和元年 7 月 29 日 (月) 15 時 00 分 ~ 17 時 30 分

場 所 奈良貴養育大学 次世代教員養成センター1 号館教室兼会議室

参加者 杉山拓次 (春日山原始林を未来につなぐ会)、吉田寛、長友紀子 (附属中学校)、  
西城秀哉、足立繁郁 (学生)、北村恭康 (奈良教育大学)

内容

○ 奈良教育大学附属中学校が冬の奈良めぐりの中で、奈良町、奈良公園、国際理解などのコースを設定している一つに「春日山原始林」コースがある。話し合いの中から、内容を充実、作り上げていきたい。

ねらい

- ・春日山原始林を形成してきた自然と、春日山原始林を内包した景観を形成してきた人間の歴史について知る。
- ・春日山原始林から自然の仕組み、価値を学ぶ。
- ・上記 2 点から、人間が自然と共に生きるとはどういうことかを考え、実行する力を育成する。
- ・子どもたちは、自然と人間を分離してきているので、自然の中には人間も入っているという見方を持ってもらいたい。
- ・まとめ方としては、時間との関係もあるが、一つは、曼荼羅的な視覚化できるものにしてきたらよい。もう一つは、この学びが他に応用 (他地域の環境等) できるようになればよい。
- ・2 年生がまとめていく。
- ・つながりを意識することが大事。つながりで人も自然も成り立っている。を分かっとう。
- ・関係性についてどういうつながりがあるのかを、生物多様性という考え方では人の活動と自然のつながりでわからない所もある。絶滅危惧種をなぜ守らなければならないかということも、実は何の役に立っているかわからない。しかし、この種が減ると何らかの影響があるかもしれないから守っているという考え方もある。
- ・生き物が好きであれば、生き物のつながりで理解していくのが良いのでは。つながりが感じられる見方で春日山を見ていくのが良いのではないか。
- ・つながりを意識できるものを事前学習しておけば。
- ・春日山原始林がなぜ文化遺産かわからない。生徒に「なぜ」を出させて、現地に行って発見できれば良い。と同時にさらに疑問が持ち答えが出てこなくてもよいのでは。



- ・自然環境と鹿の関係も過去から何百年も続いてきているので、生徒たちがすぐ答えを出すことはできない。
- ・春日山文化的背景をすることね気付くことも大切である。
- ・春日山の課題はね鹿、道かな。道は、県が作った。観光に利用したり、キャンプ場を作ったりしていた。
- ・専門家が話をする内容も難しい。原因、結果を行ってしまうので、生徒からの質問を受けた方がよいのではないかな。
- ・調べて答えを抱かすよりも、考えるプロセスが大切と思う。



- ・2年生が学ぶ立場であると共に1年生に伝える立場でもあり、何を伝えたいかをしっかり持つことも大切であるので難しい。
- ・卒業生が見ることも大切だが、考えてほしいことも述べている。
- ・つながりの中でバランスが崩れたり、関係性が少しずつ変化して問題が起きているということに気付いてくれたらよいのではないかな。
- ・考え続ける大切さに気付いてくれたらよいのかな。
- ・春日山は昔から守ってるので問題がないと思っているのが問題であることに気付いてほしい。
- ・春日山原始林は、人が手をかけることで守ってきたものである。
- ・山の中に史跡が存在している。春日山は生産が目的ではなく、森があることが大切。
- ・想像だけど、昔は春日山は 水源地 ⇒ 木の伐採 ⇒ 水が枯れる ⇒ 神の地の伐採はしない ⇒ 水源地を守る ではなかったのか。
- ・人が自然と関わっていくとき神という題材があり、距離感を保てたということが分かればよいのかな。
- ・単に森の木を伐採することはダメではなく、そこに暮らしている人の何が壊されるのか。自然を壊しているのではなく、人の文化を壊している。
- ・生徒たちが持っている春日原始林のイメージと違って、どこが違うのかを考えていくことも大切なことである。